

細江カトリック教会



〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

特別号

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

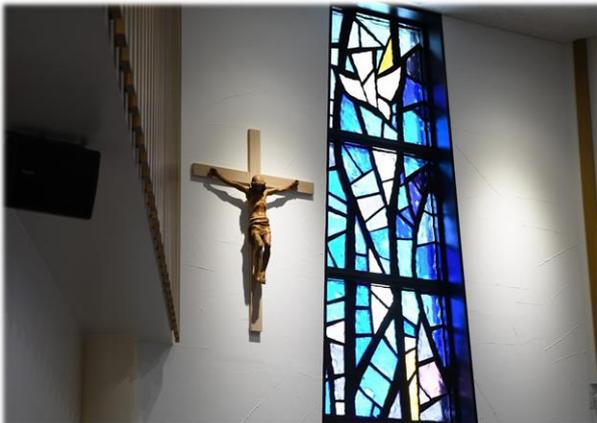
細江教会聖堂献堂式

3月30日(土)13:30~

広島教区 白浜 満司教様司式よって、細江教会の献堂式が行われました。今年は春が遅く寒い日が続いていましたので、桜の花は満開ではありませんでしたが、多くの人々の祝福を受けて…



『みなさん、今日は喜びの日です。敬虔な心で、この祭儀に参加し、信仰をもって、神のことばに耳を傾けましょう・・・一つの洗礼の泉によって新たに生まれ、主の食卓を囲んで養われるわたしたちが、愛のうちに成長し、聖なる神殿となることができますように。』



『聖霊の恵みによってわたしたちを清め、聖なる神殿としてくださいますように。・・・』

献堂式の始まり・・・

* 司祭団の入場



* 柱と祭壇に聖香油を塗油



* 献香

『神よ、わたしたちの祈りが、香のように、御前に届きますように。この家がかぐわしい香りで満たされ、教会がキリストの香りを放ちますように・・・』

* 佐久間管区長、山口地区長、片柳神父、林神父、アルティリヨ神父、外川神父、アレキサンダー神父、ディン神父、アルフレド神父、百瀬神父、越智神父



* 聖堂には
無原罪の MARIA さまが



司教による祝福

「すべての人を御子のうちに一つに集めてくださる神が、皆さんを聖霊の神殿としてくださいますように。」

「清い心を与えてくださる神が、皆さんをすべての聖人とともに、永遠の命を受け継ぐ者としてくださいますように。」アーメン。

……この祝福を受けて、わたしたちも心に刻みながら新しい出発の時です。

* 記念撮影



* 写真は三登昌二さん（広島教区）の提供

献堂式を終えて思うこと



新聖堂の献堂からほぼ一月、聖週間、復活祭と、一年で最も大事な時期を新しい聖堂で過ごすことができ、夢のように思えた祈りの家に少しずつ馴染みが湧いてきました。予想を超えて、明るく、落ち着いた、祈りの家にふさわしい場が与えられたことに、何よりもまず、感謝しなければなりません。長年親しんできた祭壇奥のステンドグラス、十字架、聖櫃、聖体ランプ、そして、パイプオルガン、さらには、ベンチと、以前の聖堂の雰囲気を残しながら、随所に設計士の配慮に満ちた意匠がうかがえる、限られた条件を最大限生かした、神の民の集いの場としての聖なる建物に、心動かされない人は少ないのではないのでしょうか。

少子高齢化の波が教会にも波及し、あちこちで教会の併合・閉鎖や修道会の撤退が現実

のものとなる中で、教会を建て替えるということ自体に、異論を唱える信徒が少なからずいるにもかかわらず、あえて建て替え計画を遂行する上で、様々な困難、障害があったことは否めません。同一敷地内に展開する幼稚園との関係、工事の前提となる代替施設や典礼・集会のための場の確保、そして、最大の関門である、資金の調達、そうした課題を一つ一つ乗り越え、着工にこぎつけるために、どれほどの時間と労力を要したでしょう。幸い、様々な予想を超えたはからいによって道が開かれ、既存の建物の解体、基礎工事に続く、幼稚園園舎と並行して行われた聖堂建設工事が無事終了し、完成の日を迎えられたことは、神の力強い後ろ盾なしにありえなかったことと、あらためて感謝する次第です。

献堂式を終えて3週間、全世界の教会は主の復活をお祝いしました。細江教会の新聖堂にも多くの方が詰めかけ、主の大いなる救いの業を思い起こし、共に、感謝と賛美をお捧げしました。復活祭を喜びのうちにお祝いした翌日、教会は突然、フランシスコ教皇逝去の報に接しました。教皇の高齢に加えての激務の日に、いのちの主は、ようやく終止符を打たれたこととなりますが、教皇が語られた言葉、示された振る舞い、態度は、いつまでも、人々の心に刻まれるに違いありません。特に、今まで、忘れられ、軽んじられてきた人々への思いやりに溢れた眼差しは、心に焼き付いて離れないのでは。細江教会の新たな船出の 때가、フランシスコ教皇の帰天と重なることは決して偶然と思えません。教皇が最初に発表された文書『福音の喜び』で繰り返された言葉、「出向いてゆく教会」、これは、まさに、細江教会の船出にふさわしい言葉ではないのでしょうか。教会に集うもの一人ひとり、そして、小教区全体が一体となって、勇気をもって、新たな挑戦に取り組み、人々の中で、信仰の喜びと希望を示し伝えるものとなるよう、決意を新たにいたしましょう。

作道 宗三

献堂式のお礼と感謝

献堂式の侍者と典礼の方々、特に寒い中での受付係・案内係、茶話会の準備の方々、大変お疲れさまでした。

新聖堂の建設は神さまと広島教区の導きと皆さまの厚い熱意、多方面の人々のご好意がなければ実現できませんでした。時には挫けそうになる心と体を神さまに委ねて、また奮いだしていく力も神さまにいただきながら・・・この日を迎えました。

これからも希望のある教会、癒される教会居場所のある教会になりますよう 皆さまと、共に歩んでいきましょう。

感謝を込めて・・・信徒代表



黙想会

2025. 3. 9 於細江教会
講師 林 尚志 神父

神の呼びかけを聞こう

私の選ぶ断食とはこれではないか

(イザヤの預言 58.6~7)

悪による束縛を断ち くびきの結び目をほどき
虐げられた人を開放し 飢えた人にパンを裂き与え
貧しい人を家に招き入れ 裸の人に衣を着せかけ
同胞に助けを惜しまない

四旬節は神の呼びかけに応えるとき。呼びかけに応える前に神の呼びかけを聞いてほしい。石の間に咲いた小さな花、ふと耳にしたことば、出会い……。その人だけの方法で聞いてほしい。

大船渡での山林火災。鎮火のために樹の幹を切ってみる…中が燃えている。樹を掘ってみる根や土に残り火がある。それを消さないとふたたび燃え上がる。残り火。

みんな、子どもの時は「よかった」と言われている。その時の残り火がある。私の中の燃え

残りの火に「あなたの愛を送ってください」と祈ろう。

今、ミサが残り火になった。ミサを燃やさなければ。

手ぶらでミサに来ない。奉献しよう。みんなで分け合う物をもってこよう。

着る物をもってこよう。卵をもってこよう。大根をもってこよう。(今は物がお金になった)

もう一つ、心と生き方をもってこよう。笑顔。「元気だった？」 チョコレートを分ける。荷物を持ってあげる。

小さな事でいい。地域社会で愛徳の行為をしてほしい。時間と空間を超えて相手に向かってつながってほしい。小さなつながりでいい。

神はノックして入ってこられる方ではなく、戸は閉まってもずっと入り、共にいてくださる。ともに一緒に生きて支えてくださる。

燃えるミサに与り、日々の生活の中で主の栄光をあらわすためにつながっていこう。四旬節は愛徳を実践する時である。

(記 広報委員)



桜の花が散り、春が通り過ぎて
風薫る5月となりました

編集後記

・教皇さまの追悼ミサが聖イグナチオ教会でイエズス会佐久間管区長の司式で行われます。5月3日(土・祝)12時~live 配信あり 共に祈りましょう。

・大変申し訳ございません。教会便り春号が間に合いませんでした。

ちぐはぐですが、以前からお願いしていた四旬節黙想会の記事を掲載させていただきました。復活祭までの様子はまた次号にお知らせします。

特に、今回は献堂式に参列されていない方々のため、写真を中心としてその様子をお伝えしました。この記事をごらんになって献堂式の雰囲気味わってくださると幸いです・・・。